

Plan (目標設定)

チェックポイント

- 児童生徒の現状や課題をもとに、重要性や緊急性の高い目標を設定しているか。
- 短期・中期的な到達目標と当該年度の重点目標が構造化されているか。
- 重点目標は具体性があり、達成までの道筋が明確か。また、子どもの変容や成果が確認できる内容となっているか。
- 全職員が目標を共有しているか。



・到達目標と重点目標の関連が分かりやすく構造化されている学校とそうでない学校が見られます。目標の関連を明確にすることで、学校の目指す方向がよりはっきりとしてきます。

・「協働型」の趣旨からも、重点目標は、子どもにも分かることばで示すことが大切だと思います。中には、全校児童が重点目標を空暗記できることを目指した実践に取り組んでいる学校の例も見られました。

・学校が継続的に取り組んでいる独自の活動に関連させた目標設定や、同一中学校区の小中学校が共通の目標設定をしている事例も注目されます。

【有識者より】

チェックポイント

- 学校・家庭・地域のそれぞれの立場・役割を考え、実践可能な改善活動が設定されているか。
- 一点突破を目指し、教職員一人一人が、「何を、いつまで、どの程度行うか」、重点目標達成までの見通しを持った取組をしているか。
- きめ細やかな情報提供や情報交換を行い、三者の協働意識が高まっているか？



Do (実施)

・「重点目標を地域の掲示板に貼り出す」「児童作成のポスター掲示」「地域行事でのポスターや横断幕を用いた広報活動」等、地域の理解と協力を求める取組にユニークな事例が多く見られました。また、町内会や地域の団体との連携に力を入れている学校の例も見られます。

・地域の捉え方については各校で違いが大きいように感じました。「地域」＝「校区」という限定的な捉え方ではなく、地域を「学校の教育力につながる学校外の教育資源」と広く捉え直すことで、地域との協働の在り方にも工夫が生まれてくると思います。

【有識者より】

4月・5月

5月・6月～

「児童生徒のよりよい姿を目指して」 ～ 協働型学校評価のチェックポイント ～

3月・2月

2月～12月

チェックポイント

- 児童生徒の変容から、当該年度の活動を振り返り、成果と課題を明らかにした上で、次年度の方向性を打ち出しているか。
- 当該年度の成果と課題について、家庭や地域に丁寧に伝えているか。



【有識者より】

・家庭や地域との協働を進めるためには、学校の教育方針や力を入れている取組、学校側から見る児童生徒の課題などについて、家庭や地域に向けて情報を発信することが重要な意味を持ちます。現在は学校だよりをはじめ、各校ごと情報発信の方法が工夫されていますが、今後はこれらを事務的な伝達事項だけでなく、児童生徒の活動の様子が具体的に把握できるような内容となるよう、各校でさらに工夫を重ねてほしいと思います。また、家庭や地域からのフィードバックを受けるためのしくみも、あわせて検討してみてください。

・既に進めている学校もありますが、重点目標を自校のグランドデザイン、カリキュラムデザインの中に組み込むことを、今後、是非検討し、実践していきましょう。



Action (改善)

チェックポイント

- 児童生徒の具体的な姿や変容を通して、重点目標の達成度や成果を把握しているか。
- 年度途中でも児童生徒の変容を捉え、適宜改善活動の修正を加えるなどP-D-C-Aサイクルを意識して進めているか。
- 保護者へのアンケート等は、重点化を図り、評価できる内容に絞り込んでいるか。
- 学校関係者評価委員会は有効に機能しているか。

・中間評価を実施している学校が多く、年間を通じた改善活動のサイクルが定着しています。

・学校関係者評価委員では、市民センターや児童館の職員、体育振興会や体育指導委員、民生児童委員など幅広く委員を選出している事例が見られます。また、生徒が学校関係者評価委員会に参加し、生徒会活動について説明をするなどの取組にも興味深いものがあります。加えて、幼・小・中などの異校種間で互いに委員に加わる例も多く、小中連携を進める上でも望ましい形であるといえます。

・教職員では、校長・教頭・教務主任以外に養護教諭・生徒指導主事なども加える事例が見られ、各校でのさらなる工夫を期待しています。

【有識者より】

Check (評価)